

耳鼻咽喉科頭頸部外科学

責任者：耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授

学習方針（実習概要等）：

外来実習では医療面接を体験習得し、診療手技を見学することで耳鼻咽喉科診療に用いる機器や手技について学ぶ。また、病棟実習では耳鼻咽喉・頭頸部の局所所見の取り方を講義・実習で学び、実際に耳鼻咽喉・頭頸部局所の診察手技を自ら体験し理解を深める。手術室実習に関しては、事前に予習し、その目的や適応について理解するだけでなく、CT、MRI等の画像の読影結果を術中所見で確認し、フィードバックすることが求められる。

教育成果（アウトカム）：

PBL チュートリアルを行うことで耳鼻咽喉科頭頸部外科学疾患における問題抽出、問題解決のステップを実際に経験し、グループ討論の中から患者さんの診断、検査、治療方針の確立にいたるプロセスを理解し、修得する。医療チームの一員（クリニカルクラークシップ）となることで、外来、病棟、手術室における耳鼻咽喉科診療の体験を深め、問題解決型学習と対人技能を修得する。

（ディプロマポリシー：1,2,6,7）

到達目標（SBOs）：

外来実習

1. 外来新患患者について、診断上必要な病歴を問診し、カルテに記載できる。
- *2. 外来新患患者について、病歴、所見から鑑別診断を挙げ、さらに必要な検査を述べるができる。
3. 耳鼻咽喉科における諸検査の意義、方法を理解し、その結果の説明ができる。
- *4. 耳鼻咽喉科疾患の単純エックス線写真、CT、MRI等の所見を読影し、現疾患が診断できる。
5. 小児難聴外来で扱う先天性難聴の診断に必要な検査の意義、方法および聴覚リハビリテーションを理解し、その説明ができる。

病棟実習

1. 頭頸部腫瘍について、その診察手技、診断法、検査所見、治療計画を理解し説明できる。
2. 耳鼻咽喉科疾患の単純エックス線写真、CT、MRI等の所見を読影し、現疾患が診断できる。

検査室実習

1. 聴力・平衡検査の手技を見学し、体験することでその原理と結果の解釈を説明することができる。
2. 味覚・嗅覚検査の手技を見学し、体験することでその原理と結果の解釈を説明することができる。

手術室実習

1. 清潔操作を理解し、手術のための手洗い、ガウンテクニックができる。
- *2. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の手術を見学し、手術の概念、方法について理解し、説明することができる。
3. 手術助手として手術に参加し、手術の介助や皮膚縫合ができる。

特に留意すべき注意事項：

1. 月曜日午前中に担当教官によるオリエンテーションが行われる。
2. 患者さんの前で「悪性」、「癌」、「AIDS」等、告知の是非が問題となっているような用語は絶対に用いないこと。
3. 診察器具、器械等を教官の許可なしに触れないこと。

卒業時までに耳鼻咽喉科・頭頸部外科にて修得すべき内容（*は必修）

- *1) 頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。
- *2) 耳（耳介、外耳道、鼓膜、聴力）の診察ができる
- *3) 鼻腔、副鼻腔の診察ができる。
- *4) 甲状腺、頸部血管（外頸静脈、内頸静脈、頸動脈）、気管を診察できる。
- *5) 口唇、口腔、咽頭の診察ができる。
- *6) 音叉を用いて聴力試験（Weber試験、Rinne試験）を実施できる。
- *7) 耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。
- *8) 鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。
- 9) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の画像が読影できる。
- 10) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の手術を見学し、体験することで手術の概念、適応と禁忌の説明ができる。

事前学修内容および事前学修時間：

シラバスに記載されている各実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行い、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。また、実習前にeポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜 e ポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

第4・5学年臨床実習スケジュール〔耳鼻咽喉科頭頸部外科学〕

指導医師名：①池田怜吉教授 ②片桐克則准教授 ③及川伸一講師 ④土田宏大助教 ⑤阿部俊彦助教 ⑥宮口潤助教 ⑦日下尚裕助教
⑧及川かおり非常勤医師 ⑨佐々木彩助教 ⑩小林有美子講師 ⑪菅野智子非常勤医師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	オリエンテーション [場 所] [矢巾医局] [指導医] ③	手術見学と助手 [矢巾手術室] ③	病棟実習 [内丸外来] ③	病棟実習 フィードバック [内丸外来] ③
火	手術見学と助手 [場 所] [矢巾手術室] [指導医] ②④⑥⑦	手術見学と助手 [矢巾手術室] ②④⑥⑦	手術見学と助手、入院患者診察 小児難聴外来見学 [矢巾手術室][矢巾病棟] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪	手術見学と助手、小児難聴外来見学、入院患者診察、フィードバック [矢巾手術室] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑩⑪
水	手術見学と助手 [場 所] [矢巾手術室] [指導医] ①③⑤⑨	手術見学と助手 [矢巾手術室] ②③⑤⑨	手術見学または腫瘍外来見学 入院患者診察 [矢巾外来][矢巾病棟] ②③④⑤⑥⑦	手術見学または腫瘍外来見学 入院患者診察 フィードバック [矢巾外来][矢巾病棟] ②③④⑤⑥⑦
木	手術見学と助手 [場 所] [矢巾手術室] [指導医] ①⑤	手術見学と助手 [矢巾手術室] ①⑤	手術見学と助手 入院患者診察 [矢巾手術室][矢巾病棟] ①④⑤	手術見学と助手 入院患者診察 フィードバック [矢巾手術室][矢巾病棟] ①④⑤
金	手術見学と実習 [場 所] [矢巾手術室] [指導医] ②④⑥⑦	手術見学と実習 [矢巾手術室] ②④⑥⑦	手術見学と実習 [矢巾手術室] ②④⑥⑦	実習のまとめ・試問 [矢巾医局] ①②

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
実習用機械	純音オージオメータ	4 台	聴力検査実習
実習用機械	自記オージオメータ	1 台	聴力検査実習
実習用機械	インピーダンスオージオメータ	1 台	聴力検査実習
実習用機械	ワイドバンドティンパノメトリ (タイタン)	1 台	聴力検査実習
実習用機械	電気味覚検査計	1 台	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	オルファクトメトリー	1 セット	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	音叉	3 台	聴力検査実習
実習用機械	耳鼻咽喉科診療ユニット	4 台	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	模型	4 台	耳、鼻、咽喉頭の解剖理解のため
実習用機械	ファイリングシステム	2 台	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	眼球運動計測装置 Eye See Cam	一式	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	眼球運動計測装置 Eye See Camゴーグル	一式	耳鼻咽喉科診察実習
診断用機械	耳音響放射測定装置	2 台	内耳機能検査
診断用機械	電気眼振計	1 台	平衡機能検査
診断用機械	視運動性眼振計	1 台	平衡機能検査
診断用機械	誘発反応測定装置一式 (エクリプス)	1 台	臨床実習における検査実習
診断用機械	耳鼻咽喉科診療用ユニットセット (ニューピアレス 2 型)	1 台	臨床実習における回診見学
診断用機械	XPS ドリルシステム一式	1 台	臨床実習における手術見学
診断用機械	外来用診療システム(FU-STE)	一式	臨床実習における外来実習
視聴覚用機械	シャウカステン	2 台	画像所見の把握と理解
視聴覚用機械	ビデオ	4 組	手術他供覧 (上顎腫瘍手術・喉頭腫瘍手術・気管切開手術)
視聴覚用機械	ビデオ装置	1 台	代表的疾患の供覧
視聴覚用機械	PVE ビデオプロセッサ (EPM-3500)	1 台	臨床実習における局所所見の供覧
視聴覚用機械	PVE ビデオ鼻咽喉スコープ (VNL-1130)	1 台	臨床実習における局所所見の供覧
視聴覚用機械	ノートパソコン (LaVie G タイプ C)	1 台	教育用 CD の閲覧
視聴覚用機械	赤外線眼振画像 TV 装置 (IEM-2)	1 台	臨床実習における眼振所見の供覧
視聴覚用機械	VISERA 耳鼻咽喉科内視鏡システム一式 (OTV-S7V.D)	1 台	臨床実習における症例供覧
視聴覚用機械	ノートパソコン一式 (PC-WA70L)	1 台	臨床実習における補聴フィッティングの見学
視聴覚用機械	PC (EndevorNT9500Pro15.4 型液晶)	1 台	講義用
視聴覚用機械	鼓膜撮影用硬性内視鏡デジタルカメラ一式 (E-330 他)	1 台	鼓膜所見の供覧
視聴覚用機械	パソコン一式 (Dimension9200)	1 台	講義
視聴覚用機械	プレゼンテーション用ディスプレイ (TH-65PF10KR)	一式	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	手術画像閲覧編集用機器 (SR-DVM700)	一式	〃

教科書・参考書等：

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (医学書院)

成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：25 点
3. 技能試験：30 点
4. ポートフォリオ：20 点
5. 指導医評価：10 点